

市指定文化財<無形民俗>

すみよしひよしじんじゃあまごいたいこ 住吉日吉神社雨乞太鼓

指定日 平成17年10月3日

所在地 菊池市泗水町住吉(北住吉)



住吉日吉神社雨乞太鼓の由来については、今からおよそ500年前、時の合志半郡の地頭合志隆門が、早魃こうしたかかどにより住民が苦しむのを見て、人々の災難を救おうと住吉日吉神社の神前に軍門の太鼓を用いて三日三晩打ち通し、滝の様な雨に恵まれ、それ以来氏子総出で祈願するようになったと伝わり、現在は、夏の7月20日前後の日曜日に、会員が集まって神社で奉納している。

雨乞太鼓は太鼓組として数人で受け継がれていたが、後継者が心配になり、昭和58年(1983)に住吉日吉神社雨乞太鼓保存会が結成され、現在飛熊、上住吉、北住吉、南住吉の4地区から15名余の会員が毎年7月の川祭りや町内外の要請などで練習を重ね活動している。太鼓は直径115cm、厚さ65cm、重さ80kgの大太鼓で、叩き手は2名1組、1人は小撥こばちでリズムをとり、もう1人が大撥おおばちで打ち込む。小撥は大撥が数人叩く間は交代しない。